

第 24 期 URSI 分科会 電磁波の雑音・障害小委員会 (URSI-E) 第 2 回対面会議
報告書

2019.7.26

日時：6 月 6 日 (木) 13:00~14:30

場所：札幌コンベンションセンター (北海道札幌市白石区東札幌)
105 会議室

出席者：(敬称略)

(現地参加) 王建青、川又憲、曾根秀昭、多氣昌生、西方敦博、林優一、
芳原容英、和田修己

(遠隔参加) 吉田進、安藤芳晃、牛尾知雄、森本健志

報告内容：

(1) E 小委員会の活動状況の報告

→ 2018 年 6 月~2019 年 3 月までの E 小委員会の活動は Activity Report として取りまとめられた。本内容は R1 年 4 月 26 日に開催された URSI 分科会 (第 24 期第 3 回) にて報告され了承された。

(2) E 小委員会の今後の活動予定について

(a) 今後の小委員会の活性化と役割分担について

→ E 小委員会メンバーの研究分野は、自然雑音と人工雑音の 2 つの研究分野に大きく分けられ、それぞれの分野に対応する学会等にて活発に研究活動を行っている。これらの 2 つの分野にまたがっている E 小委員会について、今後の活動の活性化に向けて議論を行った。参加委員から現状認識と問題点の把握、その後様々なポジティブなアイデアが出された。

例えば、人工雑音分野では多くの国内での研究会が開催されている。そこで、人工雑音分野がメインとなる一連の研究会のうちの特定の回を自然雑音分野も含めた URSI E 小委員会と共催の研究会とすることで URSI-E の活性化を促す

等が提案された。

→ 年2回（最低でも年1回は堅持する）の対面会議の継続のための開催時期について、委員方々が比較的多くが参加し、毎年開催される学会期間中が好ましいとの提案があった（今回の対面会議は、委員が多く参加する国際会議期間中ということで例年開催される会議ではない。）。

→ 年2回のアクティビティーレポートの情報収集を人工雑音、自然雑音それぞれ分野別に委員で分担して行うことになった（人工雑音系：西方委員（EMCJ）、川又委員（IEEJ）、自然雑音系：芳原委員）。取りまとめは委員長が行う。また、3年に一度のナショナルレポートの記載内容についても確認がなされた。

(b) URSI Centenary Book への寄稿

→ 各コミッションから1枚から1.5枚（自然雑音と人工雑音）の記事の提出依頼があり、E小委員会では早川正士（電通大名誉教授）にお引き受けいただいた。本原稿について芳原委員と共著にて執筆を行った。

(c) 国際会議対応（URSI-JRSM2019, URSI-GASS など）

→ 本年度、次年度開催予定の国際会議の紹介と積極的な論文投稿依頼がなされた。9月5日～6日に電通大で開催予定である、URSI-JRSM2019（日本電波科学会議）におけるE小委員会からの招待講演者として、牛尾委員が選出された。さらに、本会議の基調講演者2名のうち1名は、早川正士（電通大名誉教授）である。また、次年度開催予定のURSI-GASS（URSI 総会、ローマ）は、人工雑音系の国際会議(EMC-EUROPE)と、同じ開催地、かつ日程的に近いいため、2つの会議への同時参加の依頼の可能性も議論された。

(3) そのほか

→ R1年3月にインド、ニューデリーで開催されたAP-RASC 2019（アジア太平洋電波科学会議）の報告がなされた。

議事要旨の承認について、要旨を作成後、全委員による回覧の後、最終的な承認については委員長一任とすることとなった。

以上